
鳥籠の鍵

酒吉 舞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鳥籠の鍵

【コード】

N26760

【作者名】

酒吉 舞

【あらすじ】

わたしだけのものではない人との愛と、毎日変わりなくやって来る日常との狭間で、切なくそれでも逞しく生きようとする心の1コマ。

また朝が来て、迷いの一日が始まってしまふ。
99%の迷いと、1%の確信を秘めたままで、また玄関を出なきや
ならない。

マール模様の迷いが、空を彷徨う。

正解はどれ？どこ？誰？

手に、入らないもの。手に入るもの。

そもそも、手に入るとはどのような状態を指すのだろう。

それさえわからなくなっている。

私は、間違いなく一人の男を愛している。そしてその倍くらいの量
で、愛されている。

彼は、私のものではない。だけど、わたしのものでもある。
相反するコトバがこだまする。

私達は、99%、苦しくて、でも、1%、誰より幸福。

何をもって、人は幸福を計るものなんだろう。

そんないつもと同じような事をとりとめなく考えながら、私は毎日
家を出る。

毎日同じ時間に彼から届く朝のメール。

お昼休みのメール。

お疲れのメール。

それから、今から行くよのメール。

普通の幸せな恋人同士の日々のやりとりと同じ。

彼が、私だけのものではないという事実を除いたら。

いつまで、こうしていられるのかは、わからない。

彼が作った鳥籠に、私はまだ、入ったまま。

そこが本当にあなたの居場所なの？

広い空を舞い飛ぶ無数の命からのメッセージが聞こえる。

私は、わかっている。

この鳥籠を開ける鍵は、私がずっと前から持っている事を。本当は、彼によって、この手にずっと握らされている事を。

知っている。

でも。

まだ私は、幸福のものさしが変わらずにいる。

この心が、大空に飛び出したいと真に願う日を、待ちながら待ちながら、愛し続けている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2676o/>

鳥籠の鍵

2010年10月11日23時48分発行